

# 米の現物市場について (報告)



令和5年3月

**農林水産省**  
大臣官房新事業・食品産業部 / 農産局

# ○ 現物市場（開設主体）

- 昨年11月、**公益財団法人流通経済研究所**（東京都千代田区）が開設意向を表明。
- 今般、新たに**株式会社ぶった農産**（石川県野々市市）が開設意向を表明。
- **本年秋**には取引を開始。

## 1 公益財団法人流通経済研究所の概要

- 昭和38年3月  
流通経済研究所（任意団体）として発足
- ・ 昭和41年10月  
財団法人流通経済研究所に改組
- ・ 平成25年4月  
公益財団法人流通経済研究所に改組
- 研究調査  
流通・マーケティング分野で活動

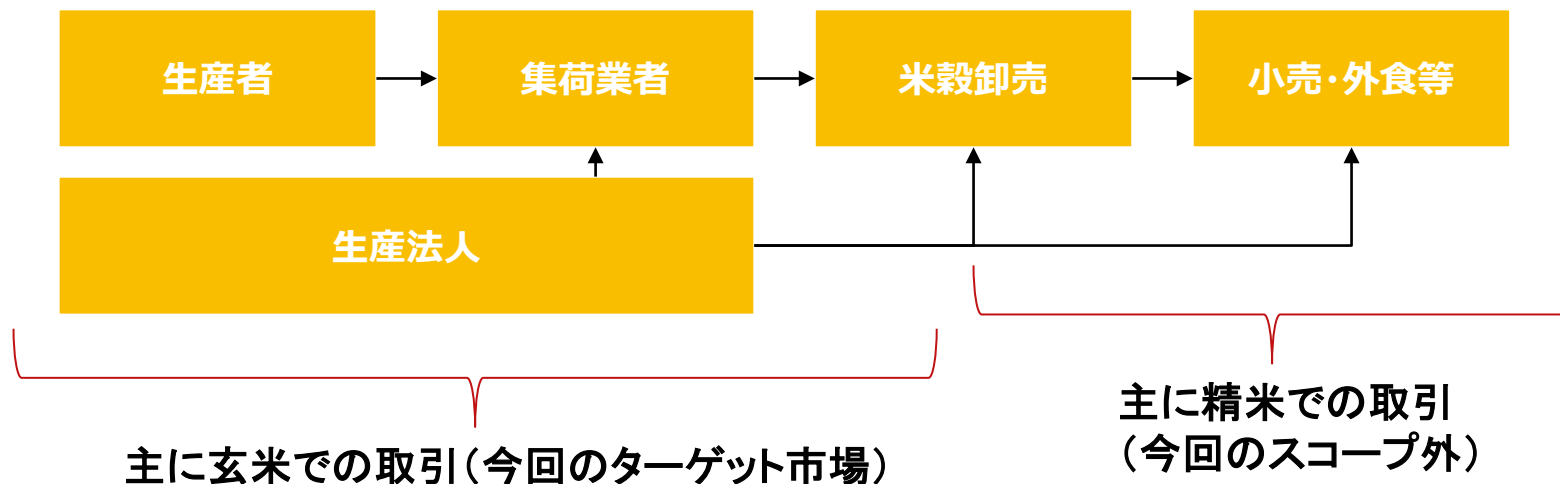
## 2 株式会社ぶった農産の概要

- 昭和63年3月  
農業生産法人有限会社ぶった農産として発足
- ・ 平成13年  
株式会社ぶった農産に改組
- ・ 平成21年  
農場管理ライセンス・JGAPを取得
- ・ 平成23年  
エコ農業者認定を取得
- ・ 令和元年  
ASIA・GAP取得
- 事業内容  
水稲、野菜等の栽培、水稲の農作業請負、  
農産加工、農産加工品等販売 等

# 米の現物市場「みらい米市場」について

公益財団法人流通経済研究所

## ①米の**玄米取引**をターゲットとする



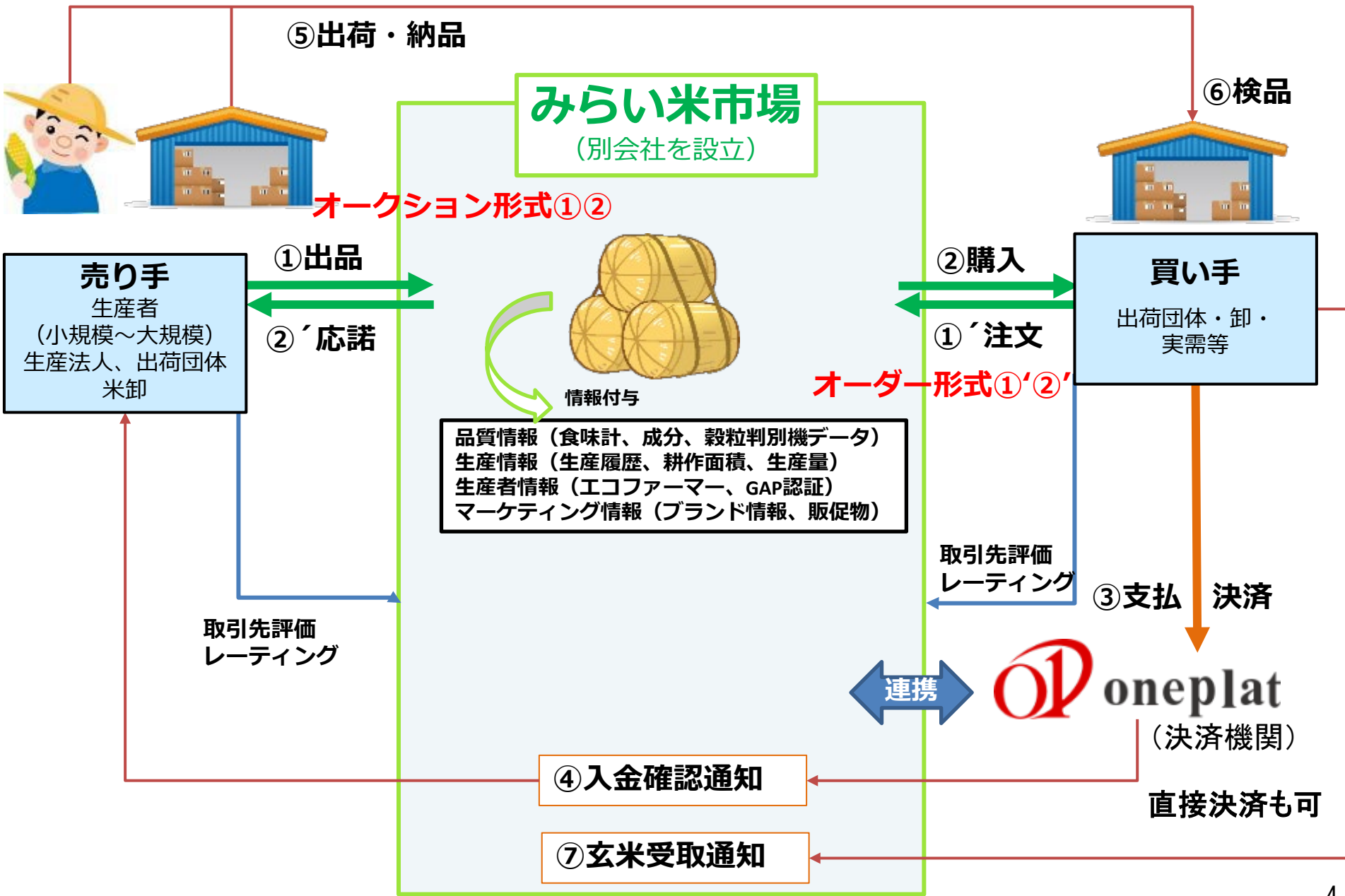
## ②大口取引（予約相対）と小ロット取引（高付加価値米）の両方のマーケットに対応するが、**当初のメインターゲットは小口取引**とする

- ✓ 小ロットの高付加価値米などの取引は、**生産者の値付けを基にしたオークション形式**（セリ取引）にて対応
- ✓ 大口での相対取引は、実需者からのオーダー形式で対応

## ③当初は、**食用・加工用**の米を対象とする

- ✓ 酒米の契約栽培や、大口の業務用米の取引も可能な仕組みとする

# 「みらい米市場」の仕組み



# 「みらい米市場」が提供するサービス

玄米の取引自体のほか、生産者等のニーズに合わせて様々なサービスを提供

1. 玄米の取引

2. 受発注の伝票レス(EDI化)

3. 与信・決済・評価システム提供

4. 相場等の分析情報提供

事業者ごとに必要なサービスを使い分けられるように設計  
→取捨選択可能

## <サービス利用パターン>

小口取引事業者等  
玄米取引を実施する人

1. 玄米の取引

2. 受発注の伝票レス

3. 与信・評価・決済

大手米卸等  
EDI化が目的+データ提供目的

1. 玄米の取引

2. 受発注の伝票レス

3. 与信・評価・決済

決済手段として使いたい人  
決済PFとしての利用

1. 玄米の取引

2. 受発注の伝票レス

3. 与信・評価・決済

# 1. 玄米の取引 : 「みらい米市場」の注文画面イメージ

買い手側から見たオークション出品中の商品イメージ

売買ボードで  
入札状況を見ながら  
入札可能

セリ販売

出品ID: XXXXXX01234

★★★★☆ 4.26

匿名出品と  
匿名落札  
可能

最小ロット: 1俵

現在価格: **15,000円/俵**~

品種: コシヒカリ

産地: ○○県○○市 納期: 即出荷可能

産年: 令和3年度産 引取期限: 契約後10ヵ月

数量: **4,560** / 6,080kg

紙袋30.4kg × 150袋

出品票で  
詳細を確認

# JAS有機

# GAP取得

# 食味値80以上

# 農産物検査済

# 1等級

詳細を見る

入札する

売り手側から見た買い手のオーダー取引のイメージ

買い注文

購入ID: XXXXXX01234

★★★★☆ 4.10

希望品種: コシヒカリ 決済: みらい米市場決済

希望産地: 特になし

産年: 令和5年度産

希望価格: **12,000円/俵**

希望数量(最低): **20,000kg**

希望数量(最高): **1,000,000kg**

最低取引ロット: **10,000kg**

納入条件: **10,000kg単位、分納希望**

荷姿: **フレコン(推奨フレコン)**

# 次年度契約

# 特別栽培希望

# 1等級希望

#

特徴を「タグ」で  
検索可能

詳細を見る

交渉・相談する

## ☒ 受発注に係る帳票データをクラウド上で送付可能にする

- ① 発注書 ② 納品書 ③ 受領書 ④ 請求書 ⑤ 支払通知書

## ☒ 決済

- ① 当事者間で決めた決済：当事者間で決めた決済（直接支払等）で決済可能
- ② みらい米市場の決済システムを介した決済も可能
  - i. カード会社の与信の活用
  - ii. その他Oneplat社の与信基準

## ☒ 評価

- 売り手・買い手双方が取引実績に基づき、商品・取引参加者を5段階評価及びレビュー評価

## ☒ 取引データ等の公表方法

- ① 一定期間の取引総量
- ② 一定期間の取引価格帯（高値・中値・安値）
- ③ 品質・産地・品種・生産者属性別の参考相場表※

※ 業界関係者を集めたワーキング・グループで議論して検討



# 農業者起点の新たなコメ現物市場の創設

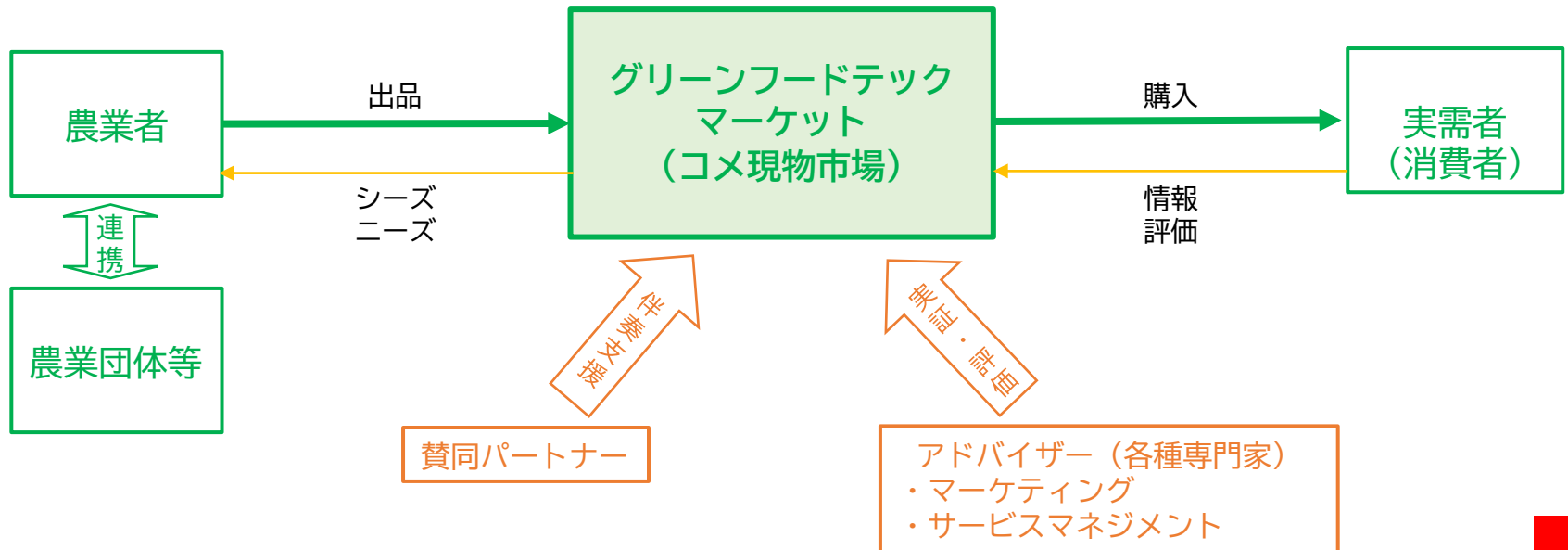
－CO<sub>2</sub>、肥料、農薬等を削減する「グリーンイノベーション」ファームिंगの実現－

株式会社ぶった農産



# コメ現物市場の創設

- 1 設立の理念 農業者起点による『価格形成力を創造するコメ現物市場の創設』  
ー コメ生産における環境配慮・地域維持・供給責任・安全生産等の価値化に向けてー
- 2 キーワード 農業者の取組の正当な評価 再生産可能な価格形成 新たな市場の創造へ  
価格競争から価値の共創へ 食料の自給と安全保障 未来の食と農を育む
- 3 実施主体 株式会社ぶった農産グループ会社（石川県野々市市）  
（共同事業参加者 株式会社農業生産法人田仲農場 ほか）
- 4 コメ現物市場 グリーン フードテック マーケット  
（GAP、有機栽培等のグリーンな取組を、穀粒判別等のフードテックで定量化し評価）
- 5 仕組み





# コメ現物市場での取引①

- 1 取引の場** コメ現物市場はバーチャル上に存在
  - ・全国の共同事業参加者（農業者が基本）が取引拠点（当面、北陸、関東、東北）
  - ・共通のルールの下で運用
- 2 出品者** 農業者、農協、産地集荷業者 等とその格付け
  - ・評価に応じて格付け 例えば 5つ星のうち「4.1」 等
- 3 買参者** 外食、給食、スーパー、ネットビジネス 等とその格付け
  - ・取引状況等に応じて格付け 例えば 5つ星のうち「3.8」 等
- 4 出品商品** 玄米、精米（将来的には粳（乾燥粳、生粳））
  - ・単年取引 単取引  
複数取引（1度の出品で複数回の取引）  
例えば 今回 ○トン、 来月 △トン、 再来月 ×トン
  - ・複数年取引 複数取引／年 例えば 3年分の取引を出品  
1年目 5回複数取引 2年目 5回複数取引 3年目 5回複数取引
- 5 取引ロット** 出品者・買参者の都合に合ったロット
  - ・玄米 10トン、4トン、1トン、20kg
  - ・中米玄米（1.7mm以上）
  - ・精米 1トン、20kg、10kg、9kg、5kg、4.5kg
  - ・中米精米
- 6 評価** GAP、肥料削減、ホワイト経営等の農業者の取組や、コメの品質データ等を評価
  - ・カテゴリー1 GAP(第三者監査等)、栽培(プレハーベスト)データ・乾燥調整(ポストハーベスト) データの各デジタル情報
  - ・カテゴリー2 特別栽培米、有機栽培米、循環型生産（畜産有機物利用や藁の提供）地域や他の農業者との調和、生物多様性栽培、持続的生産への配慮、環境対策（プラスチック肥料使用の有無等）、ホワイト経営
  - ・カテゴリー3 品質（穀粒判別データ、カメムシ・割れ・水分 等）
  - ・カテゴリー4 穀物検査等級（機械検査）



- 7 取引方法 Googleフォームに出品情報を登録  
・商品情報シートを会員に提供
- 8 品質保証 誤った情報の登録等、規約に抵触する場合は違約金  
・取引状況に応じて「格付け」を見直し
- 9 決済 出品時に決済ルール・条件提示 → 当事者同士で決済  
・農業者の取組、コメの品質データの「評価」を重視  
(代金回収サービス、輸送サービスなし)
- 10 会員登録 出品者、買参者等の関与の度合いに応じて登録  
・正会員 取引参加、個々の出品情報等の情報閲覧  
・準会員 個々の出品情報等の情報閲覧  
・一般者 代表的な出品情報等の情報閲覧 (コメに関心のある一般家庭も歓迎)  
(・幹事会員 制度の改善、入会審査、運営チェック、紛争処理)
- 11 アピールポイント 生産者と実需者・消費者とのコミュニケーション  
・生産起点の価格形成機能  
・実需者等への情報提供の場  
・消費者への消費の楽しさ・豊かさ・驚きを伝える場、食を楽しむ場、食を考える場  
・食育、食料生産のしくみを見える化、地域農業や食料自給・安全保障を考える機会

# 《参考》現物市場の課題とロードマップ（令和4年11月経過報告資料）

- 地方関係者の意見を踏まえ、情報共有の場・現物市場・価格指標の実現に向けて計画的に課題に対応。

課題	4年度下期	5年度上期	5年度下期
<b>情報共有の場</b> ・ 早期の立上げ	▼5年1月に開始（1月、5月、8月、11月を目途に定期的に実施）		
<b>現物市場</b> ・ 開設主体の確定	▼今回、公益財団法人が意向を表明		
・ 参加メリットの明確化	▼引き続き、生産者からの最低販売価格の提示、代金回収の安定化、販売先の信用状況確認、評価のフィードバック等について検討		
・ 出荷方法、コスト等の具体化	▼5年3月を目途に具体的な事業運営方法等を開示		
<b>価格指標</b> ・ リアルタイムでの公表	▼引き続き、現物市場で示される「価格指標」のリアルタイムでの公表について検討		
・ 需給を反映した透明性の高い指標化	▼5年3月を目途に具体的な方法を開示		
<b>現物市場での取引開始</b>	▼5年秋には取引開始可能な状態		